

OPINION

中部経済新聞

私はパキスタンのビジネスリーダーの一人として、日本と新興国との経済的な関係には、協力の限らない可能性があると考えている。日本は技術の応用、業務工程や手順の最適化、品質管理に優れる。一方、パキスタンのような国々

ナビゲーター

は急速にIT専門性、AIの活用、コスト効率のよいデジタルサービスを発展させている。双方の強みを橋渡しすることで、力強いグローバルな経済圏を創造し、日本および協力する国々に利益をもたらすだろう。日本の将来像は、国境を越えた協働とデジタル

日本への期待 世界各地から

其
123

国際的な協働とリーダーシップ確立を

面でのリーダーシップにかかっていると見る。

日本にとつての戦略的な機会を三つ挙げてみよう。

まず、国境を越えた才能との戦略的な協働。ハイブリッドな労働力モデルを採用し、世界中の技術と技能に優れたプロフェッショナルを活用すること。遠隔またはIT面でのアウトソーシングで、日本は高いサービス水準を維持しつつ、商圏を広げることができる。

次に、日本と南アジアのITサービス面における協働の強化。パキスタンを含む

パキスタンから(下)

南アジアはAI、フィンテック、セキュリティ、クラウドコンピューティングの中心地として立ち上がりつつある。構造的な協力関係を構築することで、日本は操業コストを下げつつ、デジタルの処理能力を拡大することができる。

さらに、「信頼に基づいた」

アウトソーシングモデルの開発。伝統的な「外注」が効率とコスト低減に注目しているのと異なり、日本に特有といえる独特なモデルは長期の協力関係を意図し、協力の開始に当たっては組織的な

手厚いサポートを行い、段階的に確認を経ながらサービスの採用範囲を拡大していくことが特色である。アウトソーシング先がこのアプローチに適応するならば、日本の企業は品質と正確さを保ちつつ業務を外部へ切り出すことを、自信をもって決断することが

できる。これらの機会を生かせば、日本は技術革新と信頼の両側面から未来へ羽ばたくことができるだろう。

デジタル経済へと向かう日本の進路は可能性に満ちている。国際的な協働を強化し、

日本が国際的な協力関係を強化し、技術革新を進展させている人物である。なお4年目に入ったこの連載シリーズで、パキスタンからの寄稿者は初めてである。これまで南アジアからの寄稿はインド、バングラデシュ、ネパールがあり、現地事情も充実しつつある。

【サイアッド・アシム・ジラニ、リーム中産連】

ジラニ氏はIT・電気通信

省パキスタンソフトウェア輸出委員会でのプロジェクトディレクターとプロジェクト管理オフィスの責任者を兼務している。また、JICAが同国で実施する技術プロジェクトにおいて重要な役割を果たしており、すでに日本と協働している人物である。

(月曜日に掲載)